

# ITCSP (Ishikawa Traditional Crafts Spread Project)

## ～若い世代の伝統工芸品の魅力・関心・認識の向上～

団体名● ITCSP / 代表者名●西村 梓 (経済学部地域システム学科2年)

### はじめに(背景・目的・目標)

ITCSP は「若い世代の伝統工芸品に対する魅力・関心・認識の向上」を目標に活動を行っている。石川県の伝統工芸産業界では、担い手不足と若年層の伝統工芸品に対する認知度の低さという課題を抱えている。このため本団体は、若者の認知度や魅力の向上を図り、石川県の伝統工芸産業の活性化に貢献することを目指して活動を行っている。

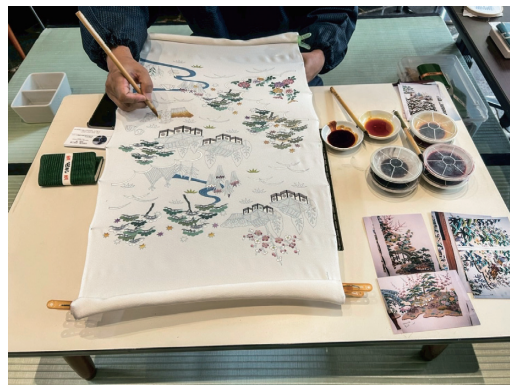
### 活動内容

活動時	活動内容
4月	昨年度の活動・調査振り返り、目標決め
5月	勉強会①②、活動・調査内容決め
6月	話し合い① (6名)
7月	フィールドワーク①、 オープンキャンパスでの活動紹介 (2名)、 話し合い② (3名)、話し合い③ (3名)
8月	SNS アカウント開設・投稿①
9月	話し合い④ (4名)、金澤きもの小町参加 (4名)
10月	国立美術館国立工芸館記念講演会参加 (3名)、 イベント企画案作成
11月	フィールドワーク②、SNS 投稿②
12月	フィールドワーク②

※参加者数無記載：全員参加

### 成果、結果の考察

まず、若い世代が伝統工芸品をより身近に感じ、関心を持つきっかけを創出することを目的に、SNS (Instagram) を用いた伝統工芸品に関する情報発信を行った。また、石川県が育んできた工芸技術や生活文化の歴史に触れ、職人の技術やデザイン性、文化の継承についての理解を深めることを目的に、石川県伝統工芸ミュージアムにてフィールドワークを実施した。ミュージアム訪問時には「推し活」をテーマにした工芸展示ブースが設けられており、伝統工芸と現代カルチャーが融合した新しい表現に触れることができた。



【工芸士 (加賀友禅) による実演の様子 (筆者撮影)】

推し活を切り口として工芸の魅力を紹介する展示は、若い世代にも工芸文化を親しみやすく伝える役割を担っており、伝統文化の現代的発信を学んだ。

そして7月におこなわれた本学オープンキャンパス内の地域システム学科説明会にて参加者約50名に対し、名前と金額を伏せた複数の1,000円程度の伝統工芸品に関連する写真と質問を提示し、伝統工芸品に対する認識調査を実施した。そのうち「本物か偽物か」「値段はいくらか」という質問においては「偽物」「高そう」という意見が半数を超えており、伝統工芸品に対する固定概念からの脱却や、誤情報の訂正等が必要であると同時に、イメージによる「伝統工芸品」が各個人の中で構成されていることについて、暗黙知から形式知への変換の解析を今後の活動を踏まえておこなっていく。

### 今後の課題、展望

今年度の活動の成果をふまえ、来年度も若い世代に対する伝統工芸品の関心や魅力の向上を目的としつつ、石川県の伝統工芸品にかかわる各団体や組織と連携し、イベント等を開催する予定である。そのうちのひとつとして、石川県伝統産業青年会議の協力のもと、流星祭において伝統工芸品の展示ブースの設営を計画している。若者が伝統工芸品を「使うもの」として捉え、日常に取り入れるきっかけを提供することを目的に、展示や解説・体験等を通じて、伝統工芸品の価値や魅力を伝えていきたいと考えている。